

口は健康のもと Vol.132

高齢者と歯周病 ～主な原因は口内細菌～

歯周病の初めは、口臭を指摘されたり歯肉が腫れたりしますが、病気が進行すると、歯は動き出し、最後には自然に抜けてしまうこともあります。歯周病のおもな原因は、口の中に常在する細菌（プラーク）です。プラークは、ネバネバ物質を作って歯の表面に付着するため、うがいだけでは取れませんから、歯ブラシや歯間ブラシで落とす必要があるのです。

唾液には抗菌性物質が含有され細菌の活動を抑える働きがありますが、高齢者では唾液の分泌が、加齢や服用する薬の影響で低下しています。そのため、歯周病が進行しやすいだけでなく、嚥下(えんげ)機能低下による誤嚥が原因で起こる誤嚥性肺炎にも注意が必要です。したがって、抗菌物質が含まれているうがい薬を使用することと歯科医院で口腔管理を受けることが大切です。

歯周病の予防には、歯の表面を清潔に保つ必要がありますので、歯と歯肉の境目に毛先を当ててブラッシングをします。歯科医院では、ブラッシング指導に加え歯石除去、咬み合わせの調整、抗菌物質を服用して細菌を減少させる処置、さらに歯周外科治療を行うこともあります。治療後の再発防止や全身の健康のためには、定期的にメンテナンスを受けることが肝要です。



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 講師 釜田 朗

